

2008 年度

科目名  日本文学講読 I	対象学科・学年 文学部日文1回生	担当者  足立 匡敏
授業テーマ 上代日本文学入門		
授業の概要と目標 日本上代文学の基本文献である萬葉集の精読を行う。萬葉集が、その後どのように読まれていくのかを視野に入れながら日本文学における萬葉集の意義、また萬葉集を読むとはどういうことかについて考える。		
評価方法 講義への出席状況 (40%)、課題の提出状況 (40%)、課題に取り組む姿勢 (20%) 等を勘案し、総合的に判断します。		
テキスト 『補訂版 萬葉集 本文編』	著者 佐竹昭広・木下正 俊・小島憲之	出版社 塙書房
参考書 授業中に指示する。	著者	出版社
授業スケジュール・内容  『萬葉集』は、日本の和歌の歴史の様々な局面で、新風を切り拓く起爆剤としての役割を担った歌集である。人々はその間にどんな思いを込め、また後の人々はこの歌集をどのように読んだのかをこの講義をとおして考えたい。 基本的には講義形式とし、萬葉集を原文のまま読み解くための方法や基礎知識を解説する。代表的な萬葉歌を取り上げながら、そこに用いられた用語、修辞、発想などを考察し、和歌の歴史における萬葉歌とはどのようなものかを考える。講義の後半 (⑤) には、近代の歌人 (正岡子規・齋藤茂吉など) が、萬葉集をどのように読み、自作にどのように活かしているかを考察することで、広く日本文学における萬葉集の意義について考える。  ①萬葉集概説 (1～3回) ②初期萬葉の作品 (第4～6回) ③盛期萬葉の作品 (第6～8回) ④晩期萬葉の作品 (第9～11回) ⑤萬葉集はいかに読まれたか (第12～15回)		